

新シニア育成講座

講座概要

育成・研修部

協会では、これまで「産業カウンセラー」の上位資格として「シニア産業カウンセラー」を設定し、「シニア産業カウンセラー試験」（以下、現シニア試験）およびその受験資格を得るための「シニアコース講座」（以下、現シニア講座）を実施してきました。

このシニア産業カウンセラーの試験は 2017 年度より新しい実施方法へ変更となります（以下、「新シニア試験」）。これに先立って、新シニア試験の受験資格を得ることができる新しいシニア産業カウンセラー育成講座（以下、新シニア育成講座）を開講しています。

新シニア育成講座は全部で 21 科目からなっており、2015 年度までに 17 科目を開講しました。2016 年度は残りの 4 科目の開講を計画しています。

●目指すシニア産業カウンセラー像

協会では、3つの活動領域（1. メンタルヘルス対策への援助、2. キャリア開発への援助、3. 職場における人間関係開発への援助）に対応できる、プロフェッショナルとして社会に通用する経験と専門性を十分に備えたカウンセラーの輩出を目的としています。

そこで期待される新シニア産業カウンセラーとは、メンタルだけでなく、キャリアや組織風土作り、風土改革などの課題までも、総合的に取り扱うことのできる人材を目指しています。①個人面接による相談活動を中心としたカウンセリングはもちろんのこと、②企業組織そのものを健康的なものにする援助も行います。そのために③コンサルタント、コーディネーター、ファシリテーターの機能も果たし、自らが動くという能動的なカウンセラーである必要があります。また④福利厚生的な視点のみならず、労働安全衛生的な視点も必要です。そして⑤常に自らを振り返り、課題を認識し、自己研鑽に努めていかななくてはなりません。

領域	期待される事項
I	信頼され影響力を持つ能力（カウンセリング力） <ul style="list-style-type: none"> ・クライアントによって各種療法を使い分け問題解決への援助ができる ・キャリアカウンセリング、キャリア教育ができる ・産業保健スタッフと協働が適切にできる ・クライアントおよび組織に対して、危機介入ができる
II	人間関係・組織開発を援助する能力 <ul style="list-style-type: none"> ・対個人ではなく、グループを扱うことができる ・企業風土の改善を支援できる ・産業現場の多文化・多様性（ダイバーシティ）への対応を支援できる
III	組織に働きかける能力 <ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス支援体制の構築、維持運営を援助できる ・関連各部署と連携をとり、組織と個人を支援できる

●新シニア育成講座と現シニア講座の比較

これまでの現シニア講座は講義が中心でしたが、新シニア育成講座ではできるだけ講義の比率を減らし、自ら体験できる部分を増やしています。書籍や参考図書は在宅学習で取り組むことで各自が個人で学ぶことはも

とより、講座に参加し、受講者同士で演習を行ったり、事例を検討したり、討議したりすることで、講座の場を通して互いに学び合い、深めていくことで実力を付けていくことを目指します。

科目によっては、研修当日をより充実させたものとなるように、受講前に送られてくる事例を各自で検討したり、指定図書を読むことで事前に準備をしてきていただく場合もあります。講座の当日になって初めて何をするのかを知るのではなく、事前に何を学ぶのかについて理解をした上で受講いただくような講座となっています。

また、各科目の受講を終えるにあたっては修了レポートが設定されています。確実な修得をはかるため、修了レポートを確認することで履修単位の認定を行い、一定の基準に達したと認定された場合に修了証が発行されます。レポート作成が設定しにくい科目についても他の方法で修了認定を行います。

各講座のシラバス（学習内容）の概要については、4ページ以降をご参照ください。

（※学習内容の詳細部分については講師によって異なる場合があります。詳しくは募集時の各科目の募集概要をご参照ください）

●開催地と時期

2016年度までは、これまで実施されてきたシニアコース講座も開催されます。

その間は新旧両方の講座の併行期間となるため、新シニア育成講座の21科目については一斉に開始されるのではなく、3年間をかけて順次開講しています。

2015年度末までに17科目が開講されました。この17科目については、今後全国各支部での開催を予定しています。また、2016年度は新たに4科目の開講を予定しています。

詳しくは会報別冊（青冊子）やホームページにてご確認ください。

●受講対象者

産業カウンセラーの資格を有し、学びを継続しながら今後産業カウンセラーとして実践活動することを目指し能力向上に意欲を持って取り組める者を対象としています。また協会に資格登録をして会員となっている必要があります。

なお既にシニア産業カウンセラー有資格者の方も、実践力の向上のために積極的な受講を推奨しますが、当初は講座数が限られているため、これからシニア資格を目指す方が優先となる場合があります。

●履修科目の順序等

すべての講座が開講するのは2017年度以降となりますので、現時点では履修順序などのモデルケースを想定していません。3つの領域を広くカバーするように順次開講していますので、受講できるところから履修していただいても問題ありません。

ただし基礎的な学習が終わっていることを前提としている科目や、より学習効果を高めるために受講する順番を推奨している科目もあります。募集時の募集概要には事前学習の内容や修了のための条件が記載されていますので、よくお読みの上でご応募ください。

●守秘義務

講座で使用される事例や、他の受講者が提示もしくは講座内で語られる企業やクライアントの情報、関係者のプライバシーなどについて安全な場を確保するため、本講座の受講を開始する前に守秘義務にかかる誓約書をご提出いただきます。

●受講条件

産業カウンセラーの資格を有しており、協会に資格登録をしている会員であることが必要です。

次の条件に満たない場合は受講をお断りする場合があります。

- ・協会とメールの送受信ができること。

レポート等のやりとりのため、データファイルの送受信可能なメールアドレスが必要です。

郵便、FAX、ケータイおよびスマホのみは不可となります。

- ・期日までに受講申込みおよび入金が完了されていること。
- ・事前学習で必須に指定されている図書については読了していること。
- ・事前レポート（設定科目の場合）の提出が完了していること。
- ・守秘義務に関する誓約書に署名し受講前に提出していること。

●修了条件

新シニア育成講座は全 21 科目、38 単位から成ります。そのうち 36 単位（216 時間）以上を受講し、修了することで受験資格が得られます。

科目番号 3～5 の 3 科目については、そのうち 1 科目を選択します。

新シニア育成講座では、各科目とも実習やグループ討議を非常に重要視していますので、全日程・全時間の連続した出席が必須となります。協会側の都合および自然災害などを除き、自己都合による欠席、遅刻、早退等の場合は未修了となります。なお、欠席等の場合に他日程への振り替えはできません。またレジュメ、講座資料は出席者にのみ配布します。

また科目ごとに設定されるレポート等の提出が必須となります。

事前課題（設定科目の場合）、講座の全時間出席、実技の結果（設定科目の場合）、講座の到達目標修得、修了レポートの完了をもって最終的に A～D で評価されます。A～C 評価で修了と認定され、最終的に D 評価となった場合は未修了となります。D 評価の場合、当該科目の単位取得のためには再受講が必要となります。

修了条件・必要時間数は科目ごとに違うため、詳細は募集時に公開する募集概要をご参照ください。

●事前学習

あらかじめ講座内容に対する理解を深めるため、科目ごとに事前学習や受講に必要な条件が設定されています。指定図書をお読みいただいたり、事前に指定される課題を行っていただくなどの条件をクリアした上での受講となります。科目によっては課題を事前にご提出いただく場合もあります。

●受講料

6 時間の科目（1 単位）	16,200 円
12 時間の科目（2 単位）	31,320 円
18 時間の科目（3 単位）	46,440 円
24 時間の科目（4 単位）	61,560 円
36 時間の科目（6 単位）	91,800 円

●申し込み方法

詳細は会報別冊（青冊子）にて公開します。

講座を主催する支部・本部により申込先が異なります。ご注意ください。

開講予定などの情報は協会本部のホームページ上にて逐次公開していきます。

●その他

各講座のレジュメや講座資料のうち、当日配布されるものについては、出席者にのみ配布します。

事前課題の図書について、具体的な書名が公開されていない科目については、受講が確定した方にお知らせします。

講師の判断により、講座の中での時間配分が変更になる場合があります。

資格登録更新に関するポイントは、1 日あたり 6 時間の出席で 5 ポイント、1 日 6 時間を超える科目は 1 日あたり 7 ポイントが付与されます。

●個々の領域における科目の概要

※〈内容〉については講座実施時に変更する場合があります。

※受講にかかる詳しい条件は募集時の募集概要をご参照ください。

(1) 領域Ⅰ 信頼され影響力を持つ能力 (カウンセリング力)

No.	科目名と講座の目的・ねらい、内容
1	<p>【認知行動療法】 3 単位・18 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 認知行動療法を用いてカウンセリング・プロセスを促進する方法を理解し実践できること</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：認知行動療法の基本理論等についての概論 (2) グループ討議：産業場面で認知行動療法を用いたカウンセリング事例の検討 (3) 実習：産業場面で用いられる認知行動療法の実習</p>
	<p>【アサーション】 1 単位・6 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 自分の自己表現をアサーションの一論の枠組みで理解し、クライアントの支援に活かすことができるようになる</p> <p>①アサーションの概要を知る ②産業カウンセラーとして、自分の自己表現についての理解を深める ③産業カウンセラーとして、アサーションをどのように活かすかの指針を得ることで、今後の継続学習に活かす</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：アサーションの基本理論についての概論 (2) 実習：産業カウンセラーとしてのアサーションの活用など、個人ワークやグループ討議を通して学ぶ</p>
3	<p>【交流分析】 1 単位・6 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 交流分析の理論を理解し、産業場面で個人が自分の力を発揮できるように援助できる力を身につけること</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：交流分析の基礎理論についての概論 (2) グループ討議：交流分析で基本的な哲学である、「私はOK, あなたはOK」の意味を考える (3) 実習：産業場面で交流分析を応用したカウンセリング事例の検討をする ・自我状態分析、やりとり分析、ゲーム分析、脚本分析をロールプレイによって学ぶ</p>
	<p>【ゲシュタルト療法】 1 単位・6 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 ゲシュタルト療法の基礎理論とファシリテーターの姿勢が実践にどう現れるかを体験的に学び、それを現場のカウンセリングに活かす在り方を学ぶ</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：ゲシュタルト療法の基礎理論についての概論 (2) 実習：ワークを通して「考えること」と「感じること」の区別や、「今・ここ」を体験する</p>
5	<p>【ソリューション・フォーカスト・アプローチ】 1 単位・6 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 ソリューション・フォーカスト・アプローチ (SFA) を用いてカウンセリング・プロセスを促進する方法を理解し実践できること</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：ソリューション・フォーカスト・アプローチの基礎理論についての概論 (2) 実習：産業場面で用いられるSFAの技法の実習や事例を検討する</p>

6	<p>【臨床精神医学・心身医学の実務】 1 単位・6 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 産業カウンセリングの限界を理解し、病理性・疾病性が疑われるケースに対する組織内での支援体制の構築、医療機関へのリファーとその後の連絡調整、復職支援などに関して実践的な対応能力を獲得する</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：臨床精神医学・心身医学の基本的理解の確認 (2) 実習：ケアマネジメントの観点からの事例への対応を考え、場面ごとに必要に応じた実務とはなにかを考える</p>
7	<p>【パーソナリティの病理】 1 単位・6 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 クライアントの抱えるパーソナリティおよび発達障害の症状特性理解および行動上の問題の見立てと目標設定が的確にできること</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：産業場面でのパーソナリティ障害、発達障害の特徴と対応についての概論 (2) 実習：産業場面で見られるパーソナリティ障害、発達障害への対応事例の検討</p>
8	<p>【危機介入等の実践的理解】 1 単位・6 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 災害、事故、自殺など事案が発生した時の個人と組織の心理的プロセスとケアの方法など危機介入についての基本的な理解と行動を学ぶこと</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：産業場面での危機介入等についての概論 (2) 実習：産業場面で見られる危機介入・対応事例についてグループ討議などで検討</p>
9	<p>【キャリア開発領域の事例検討および実習】 3 単位・18 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 クライアントの問題を的確に見立て、カウンセリング・プロセスを促進する能力と、各分野でのキャリア教育の企画・実践ができること</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：実践的にキャリア支援を行う上で、理解しておくべき理論や留意点など (2) グループ討議：各分野（企業・教育・需給調整・地域分野）における事例検討 (3) 実習：キャリアカウンセリングおよびキャリア教育研修の実習およびキャリアカウンセリング面接のロールプレイ *受講者は、標準レベルのキャリア・コンサルタント資格を取得していることが望ましい</p>
10	<p>【心理アセスメントの実践的理解（心理テスト法）】 2 単位・12 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 心理テストを用いたクライアントの問題の見立て、目標設定等のカウンセリング・プロセスを的確に促進できること</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：産業カウンセリングで用いられる質問紙法心理テスト、観察法によるアセスメントの概論 (2) 実習：質問紙法心理テストの被検者および検査者の模擬的アセスメント面接など</p>
11	<p>【逐語記録・事例報告の作成と検討】 6 単位・36 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 自分の担当事例について客観的に理解し、適切に改善するために逐語記録および事例報告を作成し、それを検討できること</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：逐語記録、対話分析、事例報告の意義、作成・検討の仕方についての概論 (2) 実習：逐語記録および事例報告の検討を行う</p> <p>①自分の担当事例について逐語記録を作成し、グループ・スーパービジョン（GSV）を行う *受講前に自分の担当した事例（面接3回以上。ピア・カウンセリング可）について録音記録し、その面接の重要部分の逐語記録を準備する。また同時に事例報告としてまとめる ・事例報告中の問題の見立て、展開の転換点、今後の課題および対応等についてGSVを受ける</p> <p>②受講者同士で30分程度のライブによる面接実習を行う（面接能力を確認する）</p>

	【セルフキャリア開発】 1 単位・6 時間
12	<p>〈目的・ねらい〉 他者のキャリア開発をモデルに自分自身のキャリアをイメージし、自分自身の人生を肯定的に振り返り、将来に興味・関心を持って適応していく力を身につけること</p> <p>〈内容〉 (1) グループ討議：産業カウンセラーとしてのキャリア開発モデル事例の検討 (2) 実習：産業カウンセラーとしてのライフキャリアをプランニングする</p>
	【自己理解の深度化（ベイシック・エンカウンター・グループ体験）】 3 単位・18 時間
13	<p>〈目的・ねらい〉 産業カウンセラーの基本的な姿勢として、自らのパーソナリティ特性、価値観、体験過程の自己理解と、他者理解の体験を深め、3つの基本的態度および人間尊重の姿勢を培うこと</p> <p>〈内容〉 (1) 実習：ベイシック・エンカウンター・グループを体験する ※本講座のみ、2日間で18時間の講座となります</p>

(2) 領域Ⅱ 人間関係・組織開発を援助する能力

No.	科目名と講座の目的・ねらい、内容
	【コミュニティ・アプローチ】 1 単位・6 時間
14	<p>〈目的・ねらい〉 個人心理臨床的アプローチから環境との適合性の調節、さらにはシステムへの介入へと専門性の枠を拡げようとする時、重要となる考え方や方法・手段などを理解し、講義とグループによる事例検討を通じて、実践的な事例対応能力をつけること</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：コミュニティ・アプローチの理論と考え方、実践的対応と働きかけの仕方の解説 (2) グループ討議：職場コミュニティにおける具体的な事例を取り上げ、コミュニティ・アプローチによる心理的援助活動をシミュレーションする</p>
	【多文化と価値観の多様性へのアプローチ】 1 単位・6 時間
15	<p>〈目的・ねらい〉 文化的気づき (awareness) ・知識 (knowledge) ・スキル (skill) の3側面の発展をはかることによって、多文化間の問題解決能力を高めること</p> <p>マイノリティ (エイズ、吃音、精神障害者、性的マイノリティ、民族的マイノリティ、DV 被害者、など) をリスペクトし、産業場面で様々な人と柔軟な関わりをもてるようになること</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：現代社会や企業内の文化的多様性と、それへの実践的対応についての解説 (2) 実習：産業場面での多文化対応事例検討と実践的対応への演習</p>
	【職場のグループダイナミックスの実践的理解】 1 単位・6 時間
16	<p>〈目的・ねらい〉 企業組織における従業員の人間性回復の要因として、職場等の集団で生じる対人関係のダイナミックスについて認識を深め、実際の職場で起きる問題を踏まえて実践的に理解する</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：グループダイナミックスの基礎理論や職場での諸問題、環境要因についての解説 (2) グループ討議：産業場面でのグループダイナミックス問題や事例の実践的対応を討議する</p>
	【人間関係形成の実践的理解】 1 単位・6 時間
17	<p>〈目的・ねらい〉 人間関係開発分野で産業カウンセラーが援助者として要請されるのは、企業やスタッフから信頼され、事柄の伝達だけではない丁寧で深いコミュニケーション風土を現場で実現できる実践的教育指導力である。それを実践的に理解する</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：コミュニケーションの基本的理論と職場内での実践方法についての解説 (2) グループ討議：現場でのコミュニケーション改善の実践事例の検討</p>

18	<p>【ファシリテーションとグループ・ワークの実践的理解】 2 単位・12 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 産業カウンセラーにとって、個別カウンセリングと並んでグループの扱いは重要である。企業現場で、より良い職場環境を維持し、生き活きた風土を作るには、グループ・ファシリテーションのスキルは必須といえる。そのスキルを実践的に習得する</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：ファシリテーションとグループ・ワークの理論と技法についての解説 (2) 演習：グループ・ファシリテーションの体験 ①数人でファシリテーター・チームを編成し、産業場面で用いられるワークを実施する ②数人のグループで、指定された課題について討議を行い、1人15分程度ファシリテーターの役割をとり、その後10分程度その「ふりかえり」をする (3) グループ討議：演習の総括としてグループの有り様やファシリテーションの実際について討議する</p>
	<p>【教育研修指導法の実践的理解】 1 単位・6 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 産業カウンセラーは企業内、組織内において、さまざまな形での教育・研修等を実施することになる。効果的な教育・研修のためには、教育・研修の目的、推進方法、教育指導の流れ、教育マテリアルの作成方法と注意点、効果的なプレゼンテーション、そして評価方法に熟知する必要がある。それらに関する一連の知識と基本的な考え、態度、注意点を習得する</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：教育指導の基本となるべき知識を紹介し、どのように効果的な教育を計画・実施するかのノウハウを理解する (2) 演習：事前に受講者が作成したプレゼンテーション資料を使用して模擬講義を行う</p>

(3) 領域Ⅲ 組織に働きかける能力

No.	科目名と講座の目的・ねらい、内容
20	<p>【メンタルヘルス支援体制構築の実践的理解】 4 単位・24 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 企業団体等組織内でのメンタルヘルスの体制を作り、維持運営していくことは、ヘルシーカンパニー作りのための必須で重要な課題である。産業カウンセラーは、それを援助するために、関連法規や医療的実践を知り、産業保健スタッフ等との連携関係（ネットワーク）を構築し協働することが求められている。そのための実践的な知識とスキルを習得する</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：メンタルヘルス体制の実践的知識の解説 (2) グループ討議：メンタルヘルス体制作りの実践事例の検討 (3) 演習：メンタルヘルス上の問題を抱えた事例について改善策を作成</p>
	<p>【働きやすい職場づくりの実践的理解】 2 単位・12 時間</p> <p>〈目的・ねらい〉 産業カウンセラーにとって、企業団体へのコンサルテーションは今後更に重要性を増す。メンタルヘルスの改善のみならず、モチベーション、モラル、リーダーシップ、チームワーク、コミュニケーション等の向上、いじめやハラスメント防止、WLBの実現によるヘルシーカンパニーづくりのための企業の管理運営体制と文化・風土の確立を支援する重要な役割を期待されている。その役割を是たすための実践的なスキルを習得する</p> <p>〈内容〉 (1) 講義：コンサルテーションの基本的理論や手法の解説 (2) グループ討議：モラル・サーベイ等を用いた実践事例の検討 (3) 演習：モチベーション等に関する企業幹部等からのコンサルテーション課題について回答・提案書を作成する</p>